

昭和二年の紛争・同盟休校に関する座談会の史料的価値

昭和二年十月二十四日の第二回大学祭に端を発し、同二十六日に同盟休校に入り、十一月三十日に解決した紛争は、俗に宮島事件といわれているが、不明な点の多い事件であった。

昭和三十年に本学七十周年を迎えるに当り『関西大学七十年史』執筆を依頼された筆者は、各方面の史料を探るべく、鋭意努力をした。既刊の『関西大学創立五十年史』は、小泉幸治教授執筆（実は殆どが飯田正一教授の執筆にかかることを、飯田氏自身から後年うかがった）の原稿を、喜多村桂一郎主席理事（編纂当时）が徹底的に手を入れたものであるという。

私は小泉教授の晩年、その病床を見舞つて、ご自身の口から当時の状況を聽取したが、何故か忘れたと称し、殆ど真相らしいものを語られなかつた。事実、私が訪問した頃は相当恍惚の状態であられた。当の排斥の対象である宮島綱男氏は、私の質問に対し、事件の真因は、山岡総理事が子息倭を専務理事にしたい為に自分の排斥を学生にやらせたことにある、といわれた。

岩崎卯一学長は、七十年史編纂委員長であったが、私の質問に対し、宮島事件の真因は、山岡総理事が、子息倭を専務理事にしようと考え、宮島氏を追い出そうとしたことにあるといわれた。すなわち宮島氏の主張そのものである。これは十一月二十三日の教授会において、十八名の専任教授、講師が決議した、次の二条の理由とす

るところであった。すなわち専任教授団は、宮島の主張である、山岡順太郎が、その子息倭を本学専務理事に任じようし、宮島理事に反対されたため、その意趣返しに彼を追出そうとしたものであると主張し、十八名の同調者を得た。彼等は十一月二十三日に

〔一〕我等関大専任教員一同は専門部紛擾の禍根が総理事山岡順太郎氏に存することを認め同氏の辞任を勧告す

〔二〕我等専任教員一同は本学専務理事喜多村桂一郎氏が専門部紛擾事件に善処せざるを認め同氏に辞職を勧告す

という決議文を作成し、大学の革新、学問の独立を叫んだ宣言書、並びに専任教員全部は今後行動を共にするという宣誓書を作り、午後六時閉会後、一同揃つて茨木町の喜多村理事邸、及び天王寺の山岡総理事邸を訪れ辞職を勧告した。山岡は、子息倭を専務理事にすることを勧めたのが、他ならぬ宮島理事であったことを弁明した。

岩崎委員長は、宮島擁護の態度だったにもかかわらず、私の七十年史の原文を読まれた後、一字一句も訂正されなかつたが、「君は宮島さんをほめすぎぢや」と言われたのである。

水谷揆一教授は、事件の原因についての私の質問に対しては笑つてはぐらかし、答えようとされなかつた。

服部嘉香教授は、宮島と大正六年の早稲田騒動の恩賜館組の盟友であり、かつ宮島にすすめられて関大に来任した人である。七十年

史執筆前の昭和三十年五月に訪問した当時は、余り話したがらぬ風であった。しかし服部教授が関大を辞任された理由は、ぼやかしながらも、氏が宮島にその活動ぶりを妬まれ、圧迫を加えられたことを、ほぼ認められた。

その後、七十年史なり『関西大学を築いた人々』なりを読まれ、事件の真相は、君の書いた通りだと認めて下さった。

七十年史を執筆した当時から、教授以外の当時の職員と学生であつた人々の話をききたいと思ったが、明快な原因指摘を聴くことはできなかつた。例えは桂忠雄氏などは、事務局に五十年近く居た人であり、関大の事務に精通する人であるが、この事件に関しては、分らぬと称して、答えられなかつた。

学生であつた人々、とくに専門部の学生であつた人々には、ついに聴くチャンスのないままに、七十年史を執筆したのである。

しかし、この事件が、専門部学生の大きな不満にあることは専門部学生大会の決議を見てもあきらかである。すなわち、十月二十五日の専門部学生大会では次の十一箇条の要求が決議されている。

一、関西大学専務理事兼教授宮島綱男氏の辞職
一、今山、佐々、桜井、松田、小泉、田辺各教授及講師の辞職
一、専任教員の増員

一、各科、各部長の設置

一、学界に権威ある教授・講師の招聘

一、元沖中教授、服部教授の辞任理由の発表

一、専門部卒業生に対し学部本科無試験編入

一、専門部図書館の設置

一、専門部学舎の移転促進

一、授業料を六円に改正せられん事（註）

（註） 徒歩は七円五十銭

一、専門部卒業生に対し職業紹介の労をとられん事

十一ヶ条の後半は専門部独自の待遇、勉学条件の改善にある。これは千里山の大学部に比し、非常に劣悪な条件に置かれているにもかかわらず、千里山の大学部建設の経済的負担をさせられている専門部生の強い不満のあらわれである。当時教授であつた宮島綱男、岩崎卯一、小泉幸治、水谷接一等の諸氏がそういうことを気付かれてなかつたのであらうか。山岡対宮島の対立が真因だとする教授方の意見には納得しがたいものがあつた。

それでかねてから、当時の学生諸氏の話、それも学生の中心的な地位にあつた方々の話を聴きたいという切なる願があつたのを、この度、実現することができた。

特に大井英一氏は、学生指導部の中心にあつた幹事長、田中久雄氏は弁論部長、白井正実氏は弁論部副部長という要職にあつた人々である。そして千里山学舎の方では、学部最高学年であつた樺本信雄氏と予科の二年生であつた戸根泰雄氏が加わられ、同じ学生であつても、中立の立場で客観的に事件をながめることが出来た方々の話をうかがい得た。

この座談会で特に私どもを驚かせたのは、田中氏等が同盟休校に反対して、ビラをまいて、ストライキに水をぶっかけたという事件である。その理由として、文芸部が公金を使かいこんで、クビになる寸前でありそれを胡麻化するためにストをやつてはいるから、スト反対を唱えた、というようなことは、全く昔々も初耳であった。

また、スト派で活躍した大井氏の話や松井広瀬の活躍も面白いが、

特に大阪の南でも不良の親分として名声をはせた正井善蔵の話など興味深い。

また白井氏らが先輩校友を弁護士会館に訪問した話も、これまで新聞記事で知り得たことの裏面を詳しく語るものである。

特に興味が深いのは、やはり教授団の中で辰巳（紀伊國屋）が学生に「ヤレヤレ」と煽動をした件である。辰巳は後、昭和五年のストライキでも指導的立場に立ち、ついに解職された人である。そして共産党秘密党員として潜行し、戦争中、困苦の中に死んだことも知られている。

やはり、思想的な煽動が多少ともあつたのだなあ、という感懐を抱かされるが、むろん、これは主たる原因ではない。

山岡倭の専務理事就任の問題をめぐる宮島と山岡の対立説については、戸根氏の詳細な性格分析論は、ほぼ当つているように思われる。七十年史と座談会速記をあわせて読み了えて感ずるのは、当時の教授たちが、さっぱり学生の心理や情況をつかめて居らず、浮き上っていたのだなあ、ということである。終りに座談会で貴重な体験を語つて下さった方々に感謝する。

文学部教授 横田健一

「昭和二年紛擾事件」に関する座談会

日 時 昭和五十一年八月十九日（木）

場 所 大乃や（大阪市東区島町一ノ十六）

出席者（敬称略）

校友 大井英一 昭三専経・昭六大経

樺本信雄 大一四専経・昭三大法

白井正実 昭六専法

田中久雄 昭三専商

戸根泰雄 昭四大予・昭七大経

大学 横田健一 文学部教授

西田香融 文学部教授

旦 菊男 年史資料編集室長

大場義之 年史資料編集室主幹

紛擾事件の原因

横田 昭和二年紛擾事件、いわゆる宮島排斥事件の原因について、おうかがいたい……。

樺本 左翼ばかりの辰巳経世先生（講師）：沖中（恒幸教授・経済学）まで…。沖中さんをやめさせた理由を明らかにせいちゅうようようなことを、反対派からいよいよったことがあるんですよ。

戸根 聞いてます。

樺本 僕らも習ったでしよう。

白井 二人の：隠れた何かがある。皆知らん何かがある。

戸根 だれが。

白井 反宮島派だと思われることについててはね、森川太郎さんが、木賃宿で朝の二時か三時ごろまでね。田中が来よつたらわかるが……。

戸根 在学中？

樺本 そうや。

白井 出入橋五丁目に木賃宿があつてん。そこへ集つてね。森川太郎さんといろいろ協議したことがある。これは表に出ない裏のこと…それは同盟休校になつてから後のこと。

樺本 後のことやろ。

戸根 宮島さんの経済学のすぐの弟子ということになれば、森川太郎だから。宮島さんの教授時分の著書『経済学原理』ですか…。森川さんて立派だったんですね。それもまだ森川さん、学生時分ですよ。その時に、その本の序文に書いてありますが、校正から何から全部森川さんがやつたんじゃないですか。今やつたら助手か助教授に書かしますわね…。

当時まだ森川さんは学生であった。だから学校にある宮島さん

の『経済学原理』をごらんになると……森川太郎と書いてあります。あの時分我々が学生で、あれ宮島が書いたんと違うんやゾ、

森川が書きよってん…書いたんやと噂されるほど直系の弟子…。

当時、関西大学というのは、法学部ですわナ。経済学部は…ごく僅かで、あつたにもかかわらず、専任の先生というたら経済学ばっかり…。法学部で法律の専任教授は佐々（穆）さん一人やなかつたか。

樺本 中大へ行つて学位取つた人。

沖中教授辞任の問題

戸根 学位取つたん、佐々さん一人です。経済学部では次の弟子を養成していましてん。それは森川太郎、辰巳經世…これはちょっと思想的には違うけど。中村良之助：人文地理…それから沖中

先生のことですが、横田先生も書いていられるが、宮島さんは非常に独善的…結局、マア幅がないということでしょう。欠点をいつたら。沖中先生は早稲田の卒業生で、宮島さんの後輩で、マアあの時分、経済学部のピカ一だったんです。若手教授で…。そのうち関大をやめて中央大学の教授に行かれて、東京でも沖中教授いうたら金融論では大御所的存在になりましたワナ。一流教授になりました。

自分の後輩であつて、一緒にやつとつこれが袂をなげ分つたか。なぜ沖中をやめさしたか、という問題が…やっぱり喧嘩したんだろうと思います。

それから服部（嘉香—学歌作者）教授のこと。早稲田で一緒に教授をしていられたんでしよう。

横田 早稲田騒動（大正六年）の同じ恩賜館組で、一緒に早稲田をやめて…。

戸根 恩賜館組の同志だつたんでしょう。それで宮島さんが関大の教授になるというので、服部さんを呼んできて教授にしたんでしょう。それが袂を分つて…。それから家庭的から言つても、こういうたらなんですが、お嬢さんが自殺していますわナ。家庭的に恵まれません。

横田 お嬢さんを大へん、こゝびどく叱られたんです。

戸根 犬の守をしていて、犬に餌をやらなかつたとかで、その時にピアノを買つて…犬に餌をやらなかつたとかで、その時に叱られて、娘心に自殺したという問題…。それから息子さん（干之）ネ。

横田 鐘紡にお入りになられた…。

白井 鐘紡に入つたるか：あの宮島か、ずっと東京に居つた宮島君が息子か。

戸根 鐘紡の宮島さんの結婚が問題：今の奥さん：の時に宮島（綱男）さんが反対して…だから宮島先生の奥さんは非常に不幸なんで…。宮島さんが老齢で関大（の理事）もやめられて浪々の身であったけれども、息子さんのおられる東京へ行けなかつたということは、息子の嫁の結婚当時の問題があるわけですワ。しかし宮島さんもなくなられて東京へおいでになつて、しばらく一緒におられたんやけど、後に別居された筈ですワ。宮島さんの奥さんは晩年非常に淋しいネ…。

（田中久雄氏出席）

昭和二年紛擾について分らぬ問題が多い

横田 田中さんがおいでになり、全員お揃いですので、一寸ござります。さつさせて頂きます。

以前も昇格の時の三笠山血盟事件のことで座談会を開いて、ご体験の方がたのお話をうかがったのですが、今回は昭和二年十月から十二月の大盟休事件で、宮島綱男先生が排斥を受けられた事件について、分らないことが多いのですから、その前後の事情について、よくご承知の先生方にお集りをいただきました。

実は二十年前に、菌田教授（当時助手）と『関西大学七十年史』を編さんいたしました時に、宮島先生のお宅へ二度参りました

「なぜ先生は排斥されたんですか？」と直接ご本人に伺がつたのです。先生は「はつきりいうたら、山岡（順太郎・総理事）さんが、自分の息子の倭を専務理事にしたい為に、ワシを排斥しようとしたんや」というようなお話をでした。私にはそれが、もう一つなつとくがいかなかつたのです。それをはじめとして、あの事件については、分らないことが多いんです。例えば会計上、宮島専務理事時代、五万円ほど欠損があつて、会計主任の野村吉蔵氏が責任をかぶつて自殺したという問題などがそうです。マア昭和二年の事件の起つた原因は、大正十一年の昇格の時に、大学と専門部とか別々にあって、宮島先生が千里山の大学に肩入れをなさつて、福島の専門部を比較的冷遇なさつたことが、専門部の学生不満の種だつたんではないかという感じがします。

宮島先生が千里山に肩入れされた理由は、文部省が旧制大学へ昇格するのに、非常にきびしい条件で千里山の整備を要求してお

りますので、学生数の多い専門部の学生の納めた授業料をつぎこんで学生数の少い千里山を建設せざるを得なかつたんだろうと、宮島先生に對しては好意的に書いたわけです。

ところが、その当時、七十年史編纂委員長であつた岩崎（卯一）先生（学長）が「横田君、君はどうも宮島さんに甘すぎる。」「肩を持ちすぎぢや」とおっしゃいましてね。「ヂヤ先生なおして下さい」と言つたんですが、岩崎先生は、全然手を入れられませんでした。

そういうことで、先生方のお話を伺いたいと存じます。

第二回大学祭の状況

樋本 その宮島騒動は、昭和二年の十一月、十二月…その遠因は早かつたかも分りませんが、同盟休校が起つたのは、二年の…。

横田 十月二十二、二十三日に第二回大学祭があつて二十三日の終りがけの時に、専門部と予科三年のリレー競走があつて、同着だったのに、宮島先生が予科の方に良い点をおやりになつて、優勝が予科三年になつたのが、専門部学生の不満の爆発点であつたというふうに聞いています。

戸根 私はネ、宮島先生が予科のヒイキをしたと言つんじゃなしに、私の記憶では松田さん、英語の先生が審判で、宮島さんが審判する筈はないですわ。一番偉い人ですから貴賓席にいて、やはり松田、桜井と若手教授らがネ…。

横田 桜井 匠。

戸根 たしか松田さんの筈ですワ。専門部と予科のリレーが発火点になつたことは事実です。ちょうど私が予科の二年生の時の大

学祭です。各教室で弁論部の展覧会、運動部の展覧会とあって、私は弁論部で大学祭が終って、展示を背景に記念撮影をしたんです。その時宮島先生や弁論部長の佐々教授を呼んでこようとする、もう専門部が火の手を擧げてるわけですね。結局宮島排斥、今晚これからちゅう時で、先生はソワソワして、ジイッと立つてられなかつたですね。僕ら何のことかわからなかつた。私ら一緒に坐つとつて、写真うつして：非常に顔色が變つて、落つかなかつた。

横田 ちゃあ宮島先生はソワソワしておられた？。

戸根 居られた。ツイ今、専門部が集つてやりかけていると…それが導火線で、宮島排斥が、運動場で、その時からヤレ！ちゅうような話、気はいが、ニュースが入つてきた。それ、こっち知りませんわね。「宮島先生写真うつしましょう」つて、そっちに気が取られとつた。ソラもうマザマザと、いつも落ついてガツとする宮島さんが、ソワソワしていられた。

樫本 私、記憶しておりますのワネ。大学祭の最後に、学部と予科と専門部の競走がある。その点数によつて優勝をきめる、ところが学部はダメですワ。我々みたいな連中で、もうえらい点がないんですワ。

ところが、たまたま予科と専門部が同点になつた。優勝旗をどうするかという問題が起つたんです。そうすると専門部の連中はね。やっぱり予科よりは我々は兄貴だ、だから専門部にもつて帰る。専門部にもらうべきだと。ところが予科の方は、それは兄貴分も弟分もない。同じこっちや。そやから、どちらにも渡すわけにはいかん、というような事が一つありましてね。大学祭が終つ

ても専門部の諸君はグラウンドに…。

戸根 集結して…。

樫本 容易に解散せずに、恐らく午後の十時ごろか、もつと後までそこで氣勢をあげて。それが紛争の導火線です。それまでバス下でくすぐった問題は沢山あるんですけどね。ちょうど私が卒業する前の年のことですからね。写真うつしたということは、あまり記憶はないんですけど。遠因というようなものは岩崎先生のお言葉では少し褒めすぎとか、少し甘すぎるのではないかといふ話もあったということですが、私は大体あれに尽きていると思つんですが、なお『七十年史』に書かれている以外にいろいろの事実、事情があつたことを、我々校友から聴いて、百年史をお書きになるご参考にしていただければ結構です。もつとしゃべらして貰つてよろしいですか。

戸根 ついでにどうぞ、先生が一番ご存知でしょう。ご年齋で。

当時の関大の機構の不備、欠陥

樫本 ああいう問題が起つたのには、いろいろ理由があると思うんです。当時の関西大学は大正十一年に昇格したと言ひながら理事会の機構、教授陣堂その他につきましては、まだまだ物淋しい、不備な点が沢山あつたと思うんです。しかしながら文部省の監督が非常にきびしくなつて昇格をした以上は、それにふさわしい内容ならば外觀もそなりますが、それを充実しなければダメだと、これも文部省のいわゆる強き指導方針ですから、そのためには理事者としても、金のある無しにかかわらず、何とかその方針に従つて行かねば、どうなるか分らんという状態であつたわけで

す。

ところが理事会一私達の大先輩の理事やった人々一も、そう度々、理事会を開いて正式に大学の運営方針をどうするか、財政はどうなつて居るのか…を嚴重にやつて居たようなことはなかつた。したがつて学長、松本泰治先生も、就任された時から「私は非常に忙しい身体であるから、始終大阪へ行つて大学の仕事を見るわけには行かん」という条件で、学長を引受けられた。そして一切は専務理事にまかすということで、結局名譽的学長みたいなことになつて居たと思うのです。専務理事は宮島先生と柿崎欽吾先生で、宮島先生は教務、学務担当、柿崎先生は経理の方を担当され、柿崎先生は非常に温厚篤実な方で、宮島先生とは、大分性格的には違います。そういう違つた性格の専務理事がおられたために、うまく行つていたんぢやないかと思ひますね。所が不幸にして柿崎先生が亡くなられますとネ。(大正十三年)いきおい宮島専務理事が、教務のこととも、庶務・経理のこととも一手でやらねばならん状態になつて來た。

ところがその当時の総理事山岡順太郎先生は、財界の巨頭ですから、関西大学が千里山に移転する際の校地の買収、学舎の建設等につきましても、非常な功労者であることは間違いないのですが、大学の運営とか、教務とかについては、あまり練達な方ではなく、そういうことは柿崎先生や宮島先生にまかされたのぢやないか。そうすると宮島先生は、柿崎先生がなくなつて専務理事一人になると、あらゆる面すべてのことを、みんな先生の手でやらなければなりません。ところが、ああいう性格の方ですから、自分の考えたことは思い切つてやる。関西大学の昇格後の大学部の発展のため

だと、非常に思い切つたことをやられて、他の人の話を充分に聞き入れずに自分でやられた点も、あるかもわかりませんけれど、そういう立場にあつて旨くいつて居る間は良いんですけど、うまく行かない、何か問題がおこる場合は、宮島専務理事がすべて功罪ともに負わねばならんということになつて來た。

ところが先程もお話があつたように、専門部の学生諸君が、千里山と福島学舎ではあまりにも、いろんな点で相違がある。卑近な言葉でいえば「継子あつかい」だという。経費の点でいうと、千里山学舎の学生数は学部はもとより、予科もまだ少なくて当時千名位。学部を合せても千三百何十名位。ところが専門部は三千、四千と千里山にくらべると二倍以上の学生で、当時は、今のように一部と二部との間にあるような学費の相違は、そう区別はないんです。今は二部の授業料は非常に日本一に安いのに、一部は相当高い。その当時はそうではない。そうすると専門部の学生諸君から云わせれば、われわれの授業料を千里山の方へドンドンつきこんどるやないか。我々を継子あつかいにするというようなことがあつた。そう考えることも無理からぬと思うんです。けれど、当時の関西大学の財政上、昇格した大学の運営、充実、発展ということを考えたら、無理をしなければやれない状態で、今のように国庫補助もありません。寄附金もそうあるわけではありませんから、唯一の道は、やはり専門部の学生諸君の授業料等で賄う以外になかったところに、宮島排斥の問題の原因がある。

当時私は学部の学生だったのですが、専門部の先輩諸君、殊に法曹界の先輩の方々や私達には学生諸君の運動が、あんなに熾烈なものだということが、全然わからなかつた。反面千里山の卒業

生は僅かで「千里山学士会」というものがあつて、一つのグループとして動いている。それから千里山の学生の一つの動き方、先生方の動き——まだ関西大学の教授会というようなものが、ハッキリあつたわけではなく、「教員会」——先生方の会。専任も二十名足らずです。戸根さんがおっしゃったように学部専任教授は。

戸根 法律学が一人。

樋本 そのほかは予科の。

戸根 予科と経済の。

樋本 教員会で、先生方が意見を交換し、どう対処するかということを考えられた。というようにいくつもの段階があり、それぞれの立場、考え方から、いろいろ意見を交換し、動向、指示等を検討したため、複雑な様相を呈することになつて、本学の長い歴史のうちでも、屈指の騒動とみられる問題に展開したと考えるわけです。

専門部学生の感情以前の問題

樋本 結局これは専門部学生の宮島さんに対する感情問題ではなくて、学校そのものの欠陥、理事会にしても、先生方の会にしても、いろいろな組織というものが充分でなかつた。先程出た金の話でも、当時の学校の予算、決算を理事会ではやつて居つたが、監事がそれについて、どの程度の監督を充分にやつていたか。実際に会計にたずさわっている事務職員に対する監督、指導を果して理事会がどの程度行つていたか。

それから学校の議決機関である協議員会も年に一遍開くだけで——十二月に開くことになつて——会則の上では協議員は、

二〇名ないし五〇名……その任命は理事会で推薦し、しかも任期は終身である。というようことで、当然予算、決算について、目を光らしておかねばならぬのに、協議員会は有名無実というか、理事のいう通りやつとることは結構じゅううということであった。

この問題が、関西大学のその後の発展のために、大きな教訓になつていると考えています。

松本学長は宮島さんを非常に信頼して、「宮島君はナカナカやり手で、悪い男とはちがう。しかし余りに責任が重かつた。大体学長の私に責任があるんだけども、大阪へ始終行くことができなかつたから、すべて宮島君にまかせておつた。それだから宮島君が非難されるんだつたら、これは当然、私が責任をとらねばならない。」というふうに、松本学長はお考えになつてゐる。私は学長のお考えは、当を得ておつたと思います。

専門部の動向

田中 当時、起爆剤になつた専門部のことについて、お話ししたいと思います。大井さんは当時三年生で幹事長。私は専門部商科の三年生で、弁論部の部長。白井さんが法科の二年生で、弁論部副部長。こういう当時の主要メンバーが三人集つております。専門部の学友会は、自治会になつておりまして、教授も講師も関与しない。学生は皆勝手に選挙で、各法・経・商・文から三年生は三人づつ、二年生は二人づつ、一年生は一人づつ幹事を選挙して、幹事会によつて学友会の組織をつくることになつて、一番重要な地位が幹事長であります。

それから皆が欲しがるのが弁論部長、これになりそなつたのが文芸部長で雑誌を発行し、それから運動部長。運動部には陸上水泳いろいろあります。

二年から三年になるころは（選挙が）面白いものですから、皆あちへより、こちへより、うどんを食べさせたり、パンを買ってきて選挙工作をやるんです。私と商科の同級生に尾崎信夫という今も達者ですが、なかなかの智恵者で、勉強もよくした人です。杭瀬におったもんですから、私も始終、尾崎君とこへ行って勉強やいろいろ教えてもらつたんです。

それでいよいよ学友会の問題から「君は弁論部長になりたいのか」「ソラ俺なりたいんだ」「それには、やはり幹事長以下、おもだつたところを握らないかん」「そう思つとる、誰がええやろか」「…へたら経済にいる大井英一、これをつかまえてきて、幹事長にしや」「もう天下とつたようなものや」「そうか、その大井いうの俺あまり知らんが」「知らんでも、これは野村証券におつて勉強家やし、瀬戸健助君の弟分で、ナカナカ勉強家で人望がある。」「ソレこっちへ来てもらおや」「それで、俺が話をする」こういうことで尾崎君がチャンとして、もう一人、法科に白井正実、乗馬部で、ナカナカ熱あげとるから、これは大した度胸もの、これは一つ…。

白井 度胸ってどんな。

田中 いざ学友会がもめた時、これが一人とび出したら、皆静まってしまうとソンなの「それは君が直接違うて口説かないかん。白井君に逢わして」というので、尾崎君の紹介で教室の隅で逢うたところがほかの幹事に立候補するのに、みな唯々諾々と立候補

した。なるほど白井正実先生は簡単に言うこときかんのです。それで君の政策を聞くくといふことで、正義派なることを使って、いろいろとり入つたけれど、「一べん考えさしてくれ」とウンと言わん。そうこうしているうちに尾崎君が大井君を口説きに行つた筈なのに、それが向う派に取られた。向う派というのが松井広瀬という体の大きい…。

白井 あつ、おつたおつた。

田中 演説の上手な…。それから正井善蔵、これは二ッ井戸の正井といつて、なかなかの不良では…。

白井 ボス的。

田中 名の通つた、大したもの、いい度胸している。この正井の子分にはズラーッと、トンボリダニの系統が連なつていて、とにかく大阪の不良少年団を牛耳る位の迫力がある。

その方に大井君をつれていつてしもた。「なんちゅうことをしてんねん」って言つたところが、「もう仕方がない、大井君と一緒にやろう」と言つてしまつた。「うちは取れんかった。そこで、誰か替りに幹事長を立てないかん、で、仕方がない」てなことで、上岡活道という年寄が居る。三十五、六で子供が一人あって洋服の「つりだんす」を発明して、大丸や三越に納めとつた人で信濃橋に店員を相当使つて…この年寄は三十六歳にもなつてて、二十二、三の若い奴の呼び出しに面白がつて乗つて来て…その選挙は終つた。

白井 それは幹事長の候補者だった？。

田中 幹事長の候補者だった。大井さんにとられてしもた。幹事の数は、僕は一割以上余計に取つとるから、リクツからいえば、

全部取れるはずなんです。やっぱり大井さんの人望といえば大変なものなんです。七対三位で上岡君が負けたんです。これで選挙は、この次に幹事会にしようというのを、ソライカン言うて、：負けてやりました。弁論部長は私にきた。そうすると松井広瀬が弁論部長になりたかった。ところが三宅万吉（大十五專經）、島田三郎（昭二專法）三代に続いて閥を作つとつた。

そこで、どうやらこうやらしとるうちに大喧嘩になりましたね。乱闘事件が起つた。乱闘の一番先頭に飛び出してきたのが正井善蔵という人。そのトンボリダニの系統は喧嘩……そこで白井弁護士は完全にこちらになつてしまつた。もう僕等の系統で力を入れて、約束はできとつた。そこで、こう体を張つてやると、さすがの正井も一寸氣味が悪く……そこで静まつて……その他の役員を決めてしまつたんです。

われわれは演説会が好きやから、明石へ演説に行つたり、名古屋へ遊説に行つたりして、少々自分の金も使うて、雄弁会ばつかり。徳島へも行つたりしてやつとつた。

紛争の経過での学生の動き

横田 いよいよ昭和二年十月二十五日のストライキが初まつてからの経過で、皆さんが、どうしておられたか、伺いたいのですが。田中 見てきた人に「どうだった」というたら、「イヤ学校ストライキや、椅子ひっぱり出して、たたきこわして運動場で火つけてそらエライこっちゃ」「ワア、そりやえらいこっちゃな」って、老松町の更科という「そば屋」がある。僕らは、関甲の時分からよくそこで会を開いたもの。更科で話を聞いたら、もう後へひけ

んというわけ。弁論部が宣言文を書くという。「そんなんやめとけ、君ら知らんけども、文芸部の連中が金を使いこんで、クビになる寸前やつたんや、そこへ行つてから、「ストライキに使いこみのまかしをひっかけたんやから不純や」と僕がいうと：「今さら、そんなこと言つたかって、もう後へひけん」。それからマア、ヤイヤイ言つて議論したが、「マア今日はこれで終ろう」と、翌日、また逢つて話をした。結局みな涙を流して「仕方がない、君がそう言うんなら、運動に反対しよう」と言うことになった。

それで宣言文を書く必要があると言うので、更科の二階で宣言文を書きかけたけれども、表が人通りが賑かで、ザワザワしとるし、こんなとこあかんナ、言うて、自動車で、天五へ行つたんです。こう電車道がズーと上つたところですよ。その一番はづれに旅館があつて、そこへ入つた。そうすると旅館の人が、「アノ新京阪の方々？」って聞く「イヤ僕ら一寸仲間で話し合いをして…」「新京阪だつか」「新京阪と違うねん」「おなごはんはありますのか」「アーア、これはえらいとこへ來たナ、あるある、今日はソレいらんねん」ちゅうて、それから、ソロソロ寒いし、皆合オーバーを羽織つて、「君はマアやれ」って、僕が宣言文を口述する。渡辺正人君が書き役で、あとは諸君が「違うとる」とか、ずうつとはたで見て、結局、一番初めの見出しが「学友会改革の狼煙をあげ、親愛なる三千の学徒に訴う」というので、ズーツとの経過を書いて、「そして金を費いこんでしからん。寸前にして、こういうことをやつた。極めて動機は不純なんだ。我々は断乎として反対する……」

樺本 森川先生が、これを聞いて…。

田中 森川先生は、それをどこかで聞いて、逢いたいと下へ見えた「そんなん、ええやないか、我々は我々の考え方通りにしよう…」そこで森川先生に聞いてみたら「マア別に誰から頼まれたわけでもないが、ストライキをやることは、あまり好ましいことぢゃない」ということで……。

戸根 その時、森川さんは学部の学生でしたナ。

田中 学生でしたか、あつ、そうですか。

樋本 僕と同期や、同期やから大学の学生でした。

横田 では最高学年ですね、昭和三年のご卒業ですから。

戸根 経済学部の三年生です。学生ですわ。

田中 (森川さんは) どつちにもつかんが、ストライキをなるべくなら早く終息さしたいという話で、「実は我々もこういうピラをこしらえている」というと、「ソラマア好きにやつたら、ええやないか」と森川さんも言うことだつたんです。

ところがどこからか知らんが「君のやつていることは大変結構なことだ。印刷やなんかに金がいるなら、大林組かどこかが、寄附してやろか、どうか」という話の、電話があつたんですよ。誰からかわからん。大林は何の関係があるのか知らんけれど……」「イヤ、ソレは結構やと、われわれ金もないけれども、それ位の金は、何とかなるから有難う」とことわつた。マアそれを印刷屋へ廻した。

白井 印刷に出しました。あくる日、撒くために。

田中 それを撒かんならんけれど、まだストライキには入つとらんので、学生は来とらんのですよ。

晩に電気が煌々とついて、上も下も旧校舎で一杯いるのやけれ

ど、皆やつぱりもうソノ：福島で…みんな演説で宮島排斥をやらかしとるところやもんやから、全部学生はその気になつたるわけですヨ。そこへ、こいつらの動機が不純やけしからんというピラを撒くんやから、どうしようつたら、どうしようつても、皆で手わけして、ピラを撒く…。

白井さんが一番度胸があるもんやから、一番逃げる道の遠い二階の校舎の端っこへ、それから村上君がこっちへ行く。みな……それで「ワシも行く」いつたら、「イヤ弁論部長は足が遅いし、君がなぐられたら具合が悪いから、君は金蘭のところまで行つて、隠れとれ」というわけ、「ソウか、それは有難い。」すまんけれど、ワシは関大の西に金蘭女学校がある。金蘭の前でかくれとつた。それで皆がネ、「撒いて、そこへ逃げて来て帰ろう。ピラを撒きやア、次のやつが出るやろう。そしてオイ、ピラ来たゾ、ピラ来たゾ！」って撒いたらあかんで、渡して來いって作戦は、それで渡した。「オイ行くで」言つて、あわて者はダッダッダッと配つとつた。何が書いてあるか知らん。それで撒いた連中は、金蘭のところへ逃げたんです。とに角、「これはケシカラソ」と追つかけて來た。中には、「そのピラ回収せり」という者も居つたけど、「エエやないか」と言う者も居るし…。

それで山田君(昭三専法)の家が“ダイニン”というところにあつたんです。学校から千メートルくらいあるかな、あつちの辻、こっちの辻をつたつて逃げて、山田君の辻の二階に隠れつた。

その時にこの人(正井)が、月は十五日か十六日の月かも知れんが、(月あかりに)何やらモゾモゾしていた。「何しどんねん君

は」と聞くと、「便所へ行く」…と（バンドを）はずして（腹へ）サラシを巻いていて、手を突っこんで、ヨツと短刀を出して、「こいつに血を吸わしてやるうと思つたのに、吸いやがらなんだナ」…という。エライ男を仲間にしとんなアと思つてゾツとした。「ええ度胸しとんなア、あんた。いくつ殺つたか知らんけれど…」。マア我々のタッチしたのは、そこまでです。後はいろいろあつたようですが、我々はその騒動には入らずに、一応ビラを撒いて、多少水をひっかけたと、こういうことです。

戸根 水をぶっかけた方ぢやなしに、水をぶっかけられた方ですネ。

田中 水をぶっかけられたし、正井につかまって、渡辺君なんか引っぱられたという話。

樋本 その時に、松井広瀬（昭三専経）なんか、何しようたの。

田中 松井広瀬はアジ演説ばっかり、やつとつたんです。樋本 向うでアジ演説か、自分がクビになるやわからんいうのに…

優勝旗の問題

薦田 優勝旗の授与が（運動会の）問題になつた。これは学部と専

門部と予科で優勝旗を…。

樋本 そうです。学部はありまへんのや…。

戸根 三学部の対抗やけど、学部はとにかく、人数が少ないし、競争にならんから、走つてるだけ…。

戸根 専門部と予科が…。
樋本 同点やつたんです。でも、度もお我慢のひき合ひでござり

薦田 戰前はずつとやつた…。ひさか戦つた、船つぶやくすく馬鹿

戸根 それからは、やらなんだそうです。リレーは問題になつて…。

薦田 最後に点数の問題…になる前にですネ…土人踊りといふ…

樋本 そらあります。

薦田 専門部の学生が…。

大井 そら宮島さんをやつつけるような…それをかたどつた。予科は予科でやりましたネ。

戸根 あの土人踊りってのは、私共予科の一年の時、第一回大学祭が千里山であった。土人踊りは高橋…。

田中 高橋ダルマ。

戸根 それと、春原さんネ。

田中 春原源太郎。

戸根 これが二人、主体になつて。千里山はススキが多いでしょ。ススキを取つて来て、あの時分柿もありました。柿をとつて柿で首飾りをして、ススキを巻いて、墨で身体を塗つて、テクテク土人踊りをやつた。これが第一回。非常に関西大学の大学祭の名物になつたわけです。いろんな仮装行列もあつたんですが、これが非常に受けたんです。

それを今度、専門部が翌年、対抗的といふこともないけれど、どぎつくなこの踊りをやつた：つまり土人踊りの共演大会になつたわけ。それが宮島問題も少し象徴したと言いますか、意味付けられたことは事実です。大学祭の優勝旗やリレーの問題より以前に、もう、くすばつとつたわけです。だから最初はあれど、その頂点にあつて、パツと優勝旗の問題で、若いですから、勝

負ということはエスカレートしますから、専門部が立つた。

横田 土入踊りは予科が大体、主体だったらしいんですが、専門部は首祭りをやつた。

戸根 二回もやつた。

大井 ちょっとね、方法が違う。

横田 主謀者は誰ですか。

戸根 それは正井さんくらいとちがうのかな。

樺本 学生大会の、同盟休校を決議する前に幹事長として大井さんは、幹事会か何か開いたんぢゃなかつたか。裏のことは別で、表だけ、どういう何でやつたか。

大井 結局は要するに、関西大学の専門部が発展をして、「大学令による大学」というものになる発展過程におけるところの、一つの問題の中に、宮島さんというものが入つて来て、排斥の対象になつた。どういう理由で対象になつたかというと、一番大きな問題は、夜学に通つとる人間の授業料をとつて、千里山へつぎ込んでしまつた。千里山の方は国家の給付金もあれへんし、財政は窮乏しどるわけだからね。

それと先ほどから言われた、学校の金が五万円ほど無くなつたことが、けしからんやないか、これは宮島が、専横で、一人取つとるんだということ。それに山岡さんの息子の倭さんが専務理事になるので、宮島が排斥したとかいうことは、当時はそういうことは無かつたんで…。

私は幹事長になるつもりでなかつたのに、引っぱられて幹事長になつて、一番幹事会を開いて、福島学舎の校庭で、一ペん大会を開いたことがあるんですワ。

あの一番広い校舎の二階へ上つて、全部集つて、松井広瀬と正井君とが中心になつて…。われわれの授業料をとつてからに、何するではないか。こういう専務理事を置いとくということは困るから、早速やめてもらおう…。それについて、どういう運動をするか、ということになつたら、松本学長とこへ、一つ決議文をつきつけてから、やめてもらおうぢやないか。ということになつたわけなんです。それで決議してね。その時分に松本学長といふのは、東京の方で、商法の大家やから、殆んど来なかつたです。一月に一回位づつ理事会があるじぶんに来られとつたというようにな書いてあつたが、その通りなんです。我々本当に顔は二、三回か見なかつた、

それは大阪駅でね。決議文を松井広瀬とか正井とか、私も幹事長やから、ついて行けど、一緒に行ってから、東京へ帰る松本学長を追つて行つて、宮島をやめさしてくれといふ決議文を渡したもの。

大学祭があつて、何があつたということも一つの原因かも知れんけれど、根本は千里山を大きくすることに、金をつぎこんだということと、それと福島学舎を改善してくれないということ、それと金を使いこんだということです。

学生の後楯でヤレ、ヤレ、ヤレ言つたのが辰巳經世さんで、この人が学生の人気を……。

その他に沖中先生も経済学部の生徒は非常に好いとつたもんで、学生も休まんと出て（講義を）聴いとつた。沖中先生も、「宮島専務理事はけしからんから、諸君が言うことは、もつとも

だ」というようなことを、やんわり焚き付けられたわけですネ。

とにかく我々はやろうぢやないかということが、何しとるわけなんです。

一寸話が外れますが、森川太郎さんの友達で、瀬戸健助とい

人が居つた。この人は肺病で死にましたけど非常によく出来る人で、岩崎先生も大学に残そうと思うとった位、よく出来る人だつたんです。この人は昭和二年に卒業して、よく出来るものだから野村証券から、その時分に勝田貞一という人が教えに来とつて、無試験で採用してしまつて、野村証券の調査部へ入つた。

そこでドイツのビルファーディングの金融資本論：マルクス学者の『資本集中論』という本を出したんですワ。その祝賀会に岩崎先生が来て、今まで関大で一番初めて本を出したのは瀬戸健助君が初めて：岩崎先生は言つたですよ。「宮島氏がやめられたんで、非常に学校もおだやかになつて、良くなりました」そういう挨拶をされたのが、私は記憶にある。

とにかく宮島さん排斥運動の、先生での急先峰は辰巳経世さんですワ。この人はもう引っ張られましたが、これ右翼なんですね。

樋本 その当時の新聞記事に学園紛争のことが出ている中に、専門部の校友、殊に少壮法曹団というか、弁護士連中が非常にあんた方の運動に肩入れしとつたんですね。

戸根 山田一太郎。

大井 そうそう山田一太郎さんとか、何か三人ほど居つてね。実は先ほど田中さんが申された通り、学友会は自治会であつたもんだから、東京へ何回となしに運動に行くのに金がいるわけです。

そのために先輩の法曹団の所へ頼みこみに行つたら、山田一太郎

さん、誰か名前を忘れたけれど、三人ほど寄附してくれたですヨ。

樋本 あの先輩連中もいろいろ会合をして、あなたの方の運動を後押ししよつたんと違うの。

大井 エ？。

樋本 ヤレヤレ言うて、元気附けとつたんと違いますか。

大井 いや、ヤレヤレとそういう所までは行かんけれど、君たちのいうことは正しい。ソラやつても良いやないかということをね。やつたらいかんということは、言わなかつたですね。

白井 大阪弁護士会の赤レンガ三階の北側に控室があつた。そこへ僕も行つたんだ。先輩の校友の弁護士のところへ、一緒に行つた。横田 山田一太郎は？。

戸根 白川先生のうちに居られた先生です。その当時、白川事務所の一一番上に書いてあるのは岩崎卯一、その次に書いてあつたのが山田一太郎です。いわゆる白川門下です。それから宮崎秀夫（大六專法）、それから、その時分に書生をしてたのは、代議士になりました福田繁芳（昭二專法）。（白川さんと）同じ香川県でしょ。

大井 神宅賀寿恵先生の處へ頼みに行つてね。「金は出したるけれど、そういう運動に金を出したことになるとやナ、俺は困る。そういうことでないのなら、何でもしたろう」と、何ばか寄附してくれたこと記憶にあります。

樋本 大井さんネ。弁護士で高梨乙松さん、花井さん、こういう人知っていますか。

大井 名前を聞いたんですけど、も一つ記憶ありません。

樋本 こういう先輩連中も応援しとつたらしいのだ。

白井 法曹の先生方に頼みに行つたときに、僕も一緒に行つた。

その時に、こういう事を弁護士の先輩方が、どこから入手されたんだか知らないが、こういうことを聞いた。

弁護士の控室の別に、小さい応接室がある。そこで弁護士の先生が三、四人居られた。君達もね。我々もそうだが、専門部の授業料だけが、学校の収入なんです。福島の校舎もボロボロになつとるんで危い。

それで予科をつくるのに住友の別邸を寄附ねがつて。

横田 住友の本社の本館です。それが学部の本館です。

白井 それで予科の方は建物が建つた。次は専門部の校舎を天六で建るという約束が前からあつたんだ…。それを建てずに、大学部の校舎建築にかかったというのは、喜多村先生（桂一郎専務理事住友の顧問弁護士）、弁護士やつたからね。（住友の建物をとろう）そういう約束が前にあつたらしい。あつたのに、宮島専務理事が実権を握つていらつしやつた関係か…。

戸根 学部が（建てよと）うるさい。

白井 とにかく大学部の方の建築に、専門部の授業料収入を、ドンと入れてしもうたらしい。それがために専門部の校舎が天六に建たないと…。

結局、宮島先生が、学部の本館の建物を建てるために、その金を使いこんどからだと…専門部の福島の校舎がボロボロになつて、危くなつとのに建替せん。予科の建物の次には建てる約束だつたのに、実行されてないんだ、ということを、僕はその時、初めて弁護士の先輩の先生に聞いたんだ。大井さんらと一緒に行つた時だつたか、どうか、今記憶にないんだが、同盟休校になつたすぐあくる日なんだ。

弁護士の先輩の中にも、同盟休校賛成というのではなしに、自分らもやっぱり専門部出とるのやし、その約束が果されてないと…。

樺本 福島学舎の土地が、鉄道の関係で移転せないかんことになつて、どこへ移転するかということで、いろいろあつたんです。最初は上本町五丁目のこっちに市の研究所とか何か、いろいろありますやろ。あそこへ行くという話もあつたんです。

ところが、天六の焼場、火葬場ですか…。がよそへ移転するとあそこがよくなるということで、天六の今の学舎が後に建築されることになつたんですけど、福島学舎は、当然移転しなければならん関係にあつたわけです。

喜多村先生（が専務理事になつたの）はネ、宮島排斥が起つてからですよ。柿崎（欽吾）先生がなくなつて、専務理事が（宮島）一人であつたために、喜多村先生が専務理事になつたのよ。宮島先生を…。

菌田 十月二十四日になつてますね、喜多村さんが専務になられたのは。

横田 大学祭の翌日。

樺本 それちゅうのは、やっぱり一人ではいかんということで、専務理事を二人置こう。宮島さんは学務の方、喜多村専務理事は財務の方を、ということになつた。（宮島さんが）あまり独断専行でいかん言うもんやからね。

あノウ白井君な。千里山の校舎は、当然学部のためには造らないかんのですよ。予科の校舎は、最初は学生が少ないから、学部と予科の校舎の中に入れてもうとつたんです。ところが、どうして

も大学は昇格した。学部の校舎がないと言うようなことでは、どうもなりません。それで、ちょうど住友本社の建物、木造ですぐれど総桧で立派なものでした。それを無償で寄附をしていただきて、分解して、移転して、千里山で、それを建直すために、八万円金がいっただと私は記憶しとるんです。

八万円の中に、専門部の授業料がどの程度入ったんか、それは知らんけどネ。専門部の校舎移転も当然やらないかんということで、前々から問題になって居った。それが千里山の方が先になつて遅れたんだ、ということに対する不満が、学生なり、先輩の皆さんにあつたかも知れませんネ。

白井 その当時、先輩はみな専門部出た人だし：先輩の多くが在学生の急先鋒の指導的立場になりましたから。

樋本 千里山学士会の方では、厳正中立ということで、早く専門部の同盟休校を解けると、大いに勧説しようということになりました。千里山で学生大会を開いたとき、問題は専門部の諸君の言われるようなことも解決せないかんが、まづ第一に同盟休校だけは一つやめてもらいたいと、僕は言つて行つたことがあるんだ。誰々と行つたか忘れたけれど、学生の代表でネ。それで一応、同盟休校はおさまりました。

白井 そう～～。

樋本 十一ヶ条の要望書が出とつたけれど、そんなものは、ボツ／＼解決しようと/or>ことで、一応同盟休校は終つたんだけれど、宮島専務理事に対する排斥運動は、その後非常に様相が変つた…。

山岡父子と宮島の確執の問題

戸根 大学に昇格したとすると、全然イメージが變つたんやなしに、宮島さんの性格から言つたら、「お前ら古いんや、わからへんのや」ということがあります。排他的ではないけれど、性格的に融和して行こうとか、話を聞いてやろうということがないんです。片方の方では、あのガキ生意気や、宮島さんはいつも他人の意見を聞かないし、古い卒業生、先輩、弁護士、法曹を立てませんのでネ。だから古い関西大学を育てた人、校友の中で、反宮島ムードはなんとなくあるし、これを同化して行こうとする努力は、宮島さんの性格では出来ない…。

大学は造つたのに金はない。山岡さんがやられたように土地を買う。漸次建設して行かなきゃならん。やっぱり学費収入でやらなければならぬ。その学費の大部分は、福島学舎の夜間部の学生が納めとる。

学生の数がて絶対二倍半からあるんです。授業料と同じです。それを全部入れて、関西大学が昇格したんだけれど、福島の校舎はガタガタや、ガラスは破れとるわ、きたない机でやつとる。関西大学予科の校舎そのものは立派なもんではないけれども、一応、自然の秀麗の中にポコッとあつたわけでしよう。

文部省のこともあるし、宮島さんとしても、新しく昇格したんだから、新しい大学造りという、宮島さん一流の一種のセンスがあります。頭はシャープですから。

金が裕福なら大学と専門部と両方いけるんですけど、財政的な問題がある。片方で文部省の設置基準の問題、昇格問題がある。

どうしても、そこまで追いやりざるを得ない素地がある。そこへ富島さんの性格的な問題がある。

宮島さんが専務理事に迎えられたのは、山岡(順太郎・総理事)さんから引張られたんでしよう。ボコッと入って来たんじやない。富島さんもあんまり山岡さんに頭も下げるし:山岡と言つても、財界の巨頭であつても、学問のこと、大学のことぢや、わかりっこねえぢやないかと、頭を下げて行かない。意見も聞かないでやつて行く。それで富島さんと総理事との確執というか、同化しない問題が出てきよる。

山岡さんにしたところで、関西大学を愛するセンスはあるが、少し山岡センスと富島センスは違います。しかし山岡さんは関西大学を育てるという熱意、情熱がある。息子の倭さんはスポーツが好きぢやと、一番にやつたのが千里山の今的第一グラウンドの建設です。

今でこそあのグラウンドですが、当時あそこで野球部がアメリカの野球部を呼んできて試合をしたことがある。あの時分のアロ大毎野球団(とやつた)日本で有数な運動場だつたんです。

横田 甲子園の出来る……。

戸根 前です。

横田 直前でしたかね。(甲子園は大正十三年に完成。)

戸根 あそこで野球の試合やつたんですからね。運動好きですから、その当時倭さんがやられることは運動場をつくること、力を入れたのは野球部ですワ。その時分野球部の全盛時分で、本田、西村の全盛時分で、関西大学はヨボヨボした内容の大学でありながら、海外遠征もやつています。西村幸生時分にハワイまで。

横田 昭和八年(註、六月十三日渡布、ワンドラス・ブレーブス、全ハワイ、中国人、海軍、朝日、ワイアツ日本人、ワイパク日本人等と九勝四敗)。

戸根 昭和八年でしよう。ハワイも行つてゐるし、アメリカまで行つてます。(昭和五年四月渡米、ワシントン大、スタンフォード大、南カリフオルニア大、ウイナッヂ白人、シャトル太陽、シャトル日本、サクラメント等と戦い、十戦六勝四敗、六月五日帰阪)海外遠征に野球部は金ありつこないでしよう。やっぱり山岡倭のポケットマネーでやつてるし、合宿所が千里山の今の:にあつた。そんな金、野球部にある筈ないでしよう。運動部にボンボンやつた。宮島はスポーツにあまり関心はない。あの人の性格的に言つて…。

山岡は親父として、やはり息子が可愛いから、「倭、関大へ行け〜」いうて運動部はビヤーとのびた。横田先生のお書になつてゐるのを読んでみると、山岡総理事が息子を専務理事にする気持はなかつたんだということですけど、しかし「ま、学校のために、お前、俺のかわりにやつてくれ」と言うことは言うたんでしょう。あつたつてことは事実だと思います。専務理事にしようと思つたか、どうかは別の問題にして、そういうことのジエラシ一というか、焦りというか、何か感情的に受けつけない富島さんと、結局、倭との関係が…:宮島さんが考えすぎて、総理事は倭を入れるんじやないか、そのつもりやないかと…。

僕だったら上手に倭を料理しますワ。下に仕えますワ。たててやつてネ。顔だけ出して、お前やつてくれって、煽ててやらしたらしいのだけど、宮島さんの性格では出来ませんワ。「あの野郎、

頭の悪い野郎で、運動しか知らん奴や…」という頭が、バカにしたかたちがある。上手に牛耳るという才能が宮島さんに無いでしょう。

性格的な問題は、山岡総理事が、あれだけの実業界の巨頭だから、僕の能力も知つて居られると思うんです。僕がよかつたら、もつと成功して居られます。山岡さんはそこまでは考えていられなかつたと思うけれど、だから逆に宮島さんが、そういうところに確執が出来たと思います。

それから今日、お話を聞いとつて、わかつたことは、田中さん、白井さんの名前はよく存じているんですけど、その時に福島学舎の専門部の人たちが一致して、ストライキを起して、宮島排斥運動をやつた中にあって、田中弁論部長は、そうではないんだと言ふことで、何故なのかその点だけ疑問だつたんですよ。

正井の話と専門部学友会の裏話ね。僕ははじめて聞いたわけです。田中さんなんか、先頭にたつて宮島排斥のリーダーシップを取つて：田中さんは今でも政治家やけど、……先頭に立たなきゃならんのだけど、油をそそぐんじゃなしに、むしろ水をかけられた事情は、今初めてわかつた。

千里山に関西大学弁論部があつたんです。当時佐々教授が弁論部長で、非常に学生間の信望もあるし、特に我々が尊敬しつつた。それが宮島さんの子分ではないんですよ。絶対子分ではないんです。しかし、これはお家の一大事、関西大学の一大事やと、宮島をころしてやつて、この世から葬らなかわいそうやという正義感でね。宮島闘とか何とか言う問題でなしに、正義感で。

白井　一の子分だと…。

戸根　宮島さんの力にね。当時の実力教授言うと法学部の佐々さんですワ。学問的な力で言うたら佐々か、片一方の柱は岩崎さん。

これも宮島さんの性格的な問題で、岩崎さんが校友で、学生に非常に人気のあること、これから成長する人…。だから何となく表に出さないように、岩崎さんを押えてかかってるわけですね。長老教授、中心教授は佐々か岩崎であり、岩崎が頭をもたげることは好ましくないと、佐々を立てるという感じがあつた。新しい大学をつくるにあたつて、その犠牲に…。

横田　どうも、ありがとうございました。

樺本　あんた、ええ話を聞かせてくれて…。

戸根　でもちと説明あります。関西大学文学部教授

田中 健一 文責 横田 健一